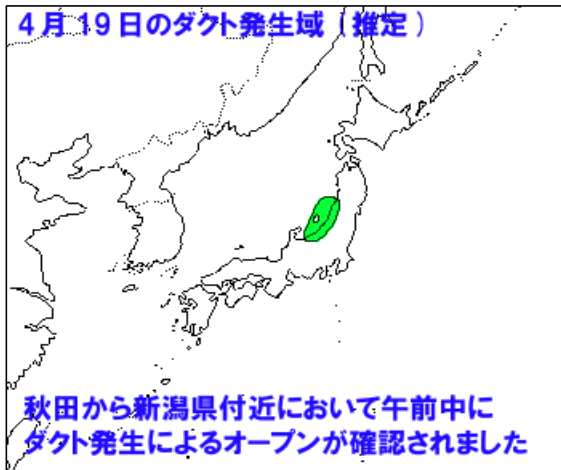


7~0エリア間ダクト発生オープン情報

2006年 4月19日 JG0TEV 中村

4月19日の午前中に秋田県～新潟県付近にかけてダクト発生によるオープンが確認されました。



J071ZC須藤さんからのオープン情報です。

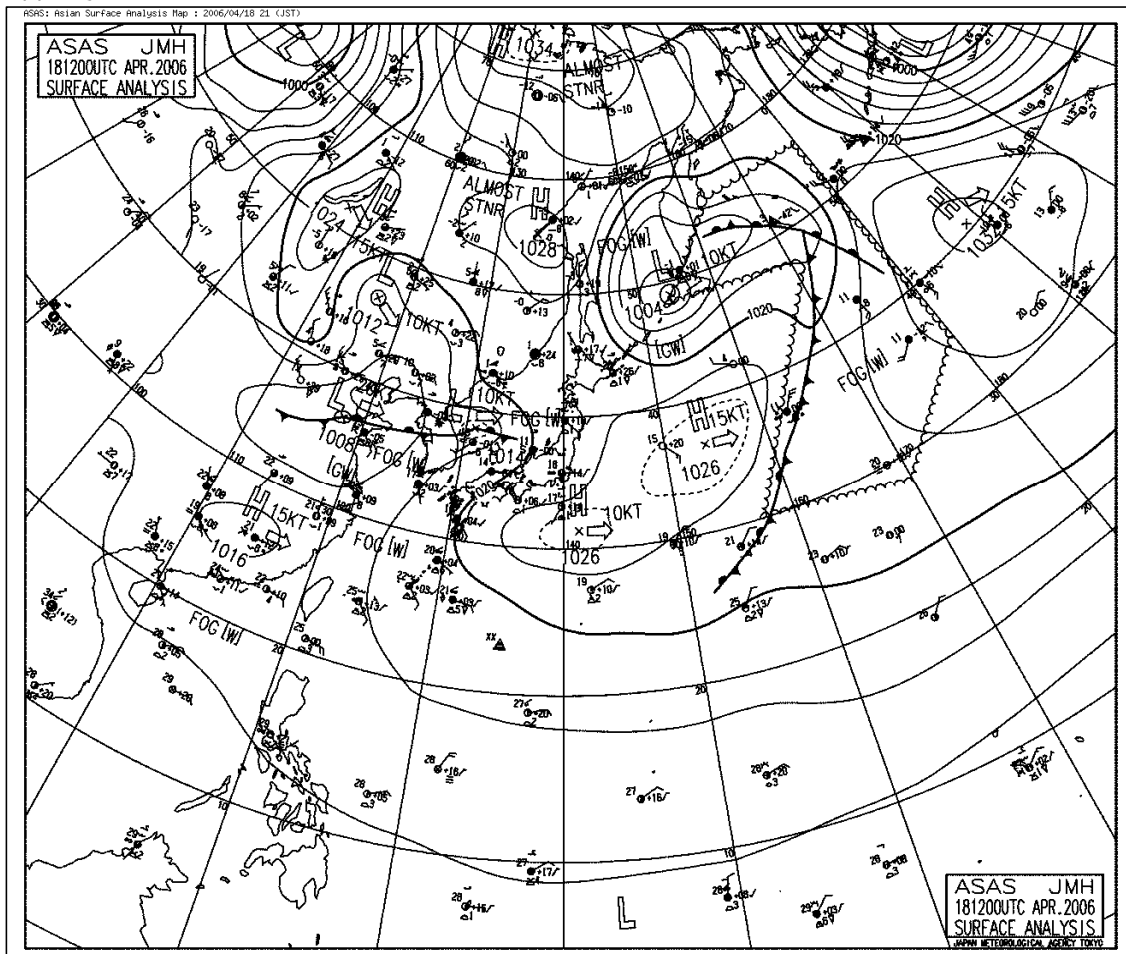
09:00 JA0VY1(新潟県加茂市) -J071ZC(秋田県由利本荘市) RS59-59
09:30 J10FJE(新潟県糸魚川市) -J071ZC(秋田県由利本荘市) RS59-59
2局とも強かったよ。

気象解析

地上天気図から18日21時には移動性高気圧の中心が本州の東海に去っていて、日本海には気圧の谷が接近している状態であることがわかります。

地上天気図

18日21時



850hpa面解析図をみると、18日21時には高気圧に伴う1,500mの等高線は日本海を横切っていて本州付近は高気圧の勢力圏内であったものと判断できます。

また、湿数は輪島上空で 12、秋田上空で 16 など、感想空気が流れ込んでいたことが読みとれ、等温線と風向から南からのあたたかい空気が流れ込んでいたことが解析できます。

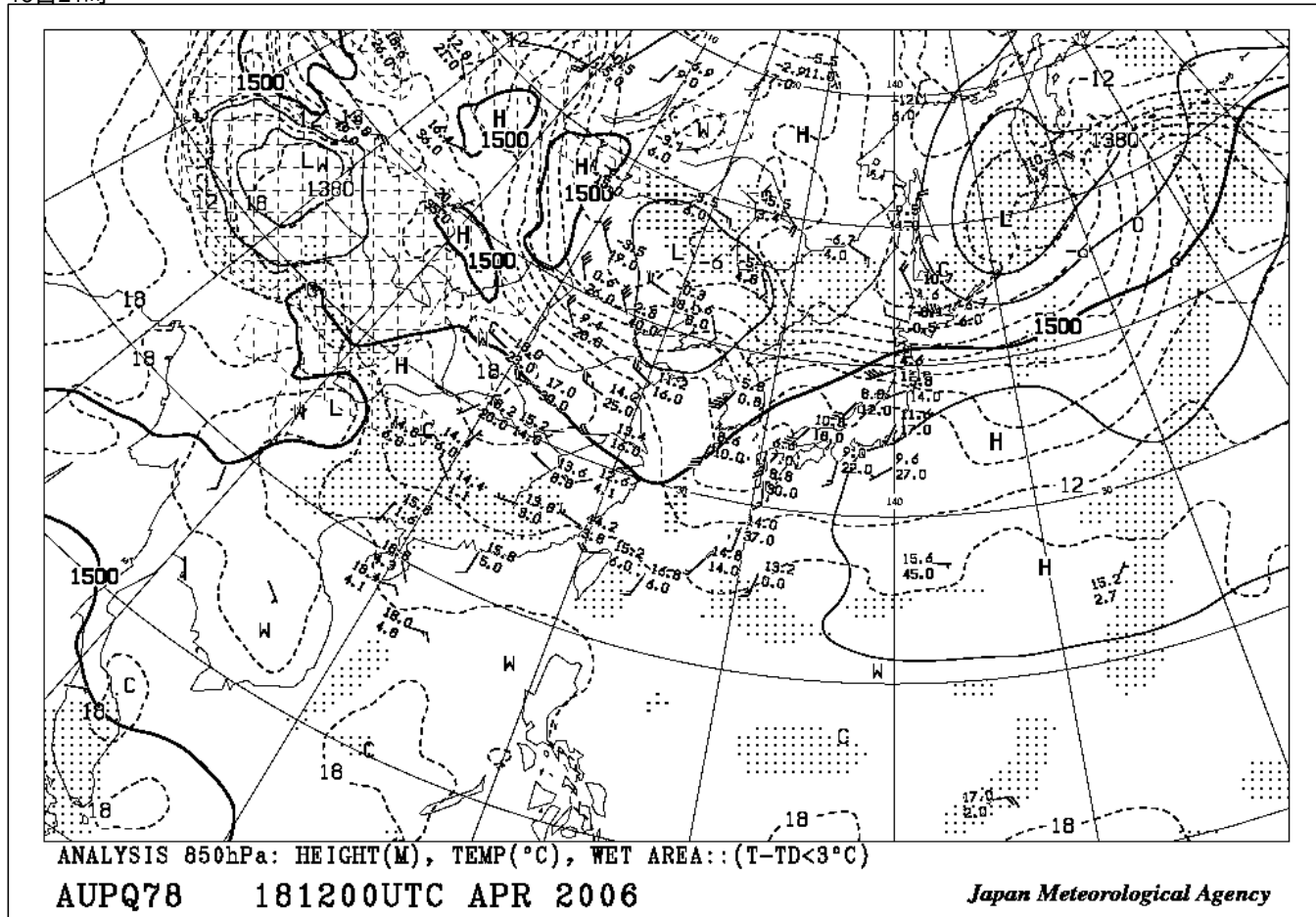
このような状態の中、700hpa面解析図から日本海にはリッジとリッジに伴う負渦度領域が解析できます。

日本付近における700hpa面の鉛直流は上昇流域となっています。これは接近している低気圧に伴う上昇流が強まっていると考えるよりも、乾燥空気を伴った暖気移流によって空気全体があたたまったことによって上昇流が発生しているもので、ダクト形成に不利な条件ではないものと考えます。

以上から、ダクト形成条件がそりやすい状態であったものと判断します。

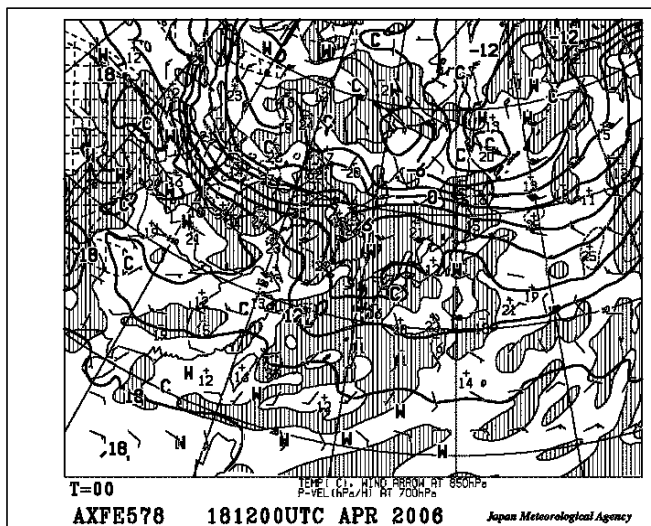
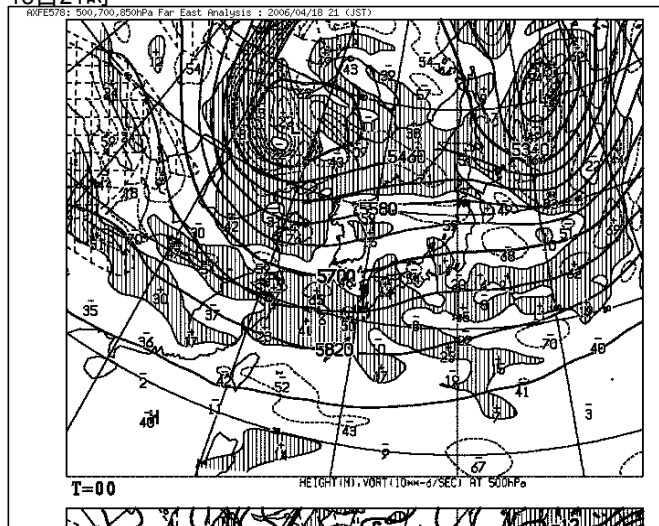
850hpa面高度・気温・湿数

18日21時



500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温

18日21時



【参考】 赤外線雲画像

雲画像を見ると日本付近には大きな雲域が広がっていることがわかります。
雲画像だけを見ると天気は下り坂でダクトの形成は無理？とも考えてしまいがちですが、これが雲画像だけでダクト発生を予想する場合の盲点となります。

18日21時



19日 3時

